

氏名	篠 原 徹
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1321 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和57年 9 月30日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	DETECTION OF LIVER IgG Fc RECEPTORS USING SOLUBLE IMMUNE COMPLEXES OF PEROXIDASE-ANTIPEROXIDASE （ペルキシダーゼ-抗ペルオキシダーゼ可溶性免疫複合体を用いた肝組織内 IgG Fc リセプターの検出に関する研究） I DETECTION IN LIVER TISSUE FROM PATIENTS WITH LIVER DISEASES （第 1 編 肝疾患患者の肝組織内における検出について） II DETECTION IN LIVER TISSUE FROM MICE WITH D-GALACTOSAMINE INDUCED HEPATITIS （第 2 編 実験的 D-ガラクトサミン肝炎時のマウス肝組織内における検出について）
論 文 審 査 委 員	教授 木村郁郎 教授 太田善介 教授 折田薫三

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

肝炎慢性化の過程における肝組織内 IgG Fc リセプターの局在の精細な動態を知る目的で、各種肝疾患時ならびに C-57 black マウスを用いた実験的 D-ガラクトサミン (Gal N) 肝炎時における肝組織内 Fc リセプターの局在をペルオキシダーゼ-抗ペルオキシダーゼ可溶性免疫複合体 (PAP) を用いて観察した。さらに、PAP と肝組織の諸条件下における反応性の特性についても検討を加えた。

その結果、AGG の前処理や PAP-F (ab)₂ での反応性の成績より PAP の Fc 部分で肝組織と反応することが確認された。酵素前処理による結合性の阻止反応成績は、neuraminidase では変化を認めず、pronase および trypsin ではほぼ阻止されたが、低濃度の trypsin では一部変化を認めなかった。

正常肝組織においては、ヒトおよびマウス共に Fc リセプターは肝細胞膜、クッパー細胞と類洞壁の一部（類洞上皮と推定）に検出された。ヒトおよび Gal N 肝炎

時には肝細胞膜や類洞壁での反応性は減弱を示したが、クッパー細胞での反応性は増強し、浸潤細胞表面での局在が顕著であった。特に慢性活動性肝炎時には門脈域と piecemeal necrosis 部に多数の PAP 陽性浸潤細胞の出現を認めた。以上の現象は肝炎の活動性の程度にはほぼ相関して認められた。一方、再生肝細胞膜上での反応性はよく保持された。

以上のことより、肝炎の慢性化や活動性と関連して肝組織内 IgG Fc リセプターの局在や Fc リセプター陽性細胞の動態が相関することが明らかにされ、免疫学的肝障害機序の重要な要因の一つであると考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究はペルオキシダーゼー抗ペルオキシダーゼ可溶性免疫複合体を用いた肝組織内 IgG Fc リセプターの検出について臨床的ならびに実験的に研究したものであるが、従来十分観察されていなかった IgG Fc リセプターの局在について正常肝で肝細胞膜、クッパー細胞及び一部の類洞上皮にこれを認め、肝疾患時には変動を示し、肝炎慢性化の免疫学的機序に関連した重要な因子の一つと考え、実験的にもかかる変化は肝細胞の変性、壊死、再生に関係していることを認め、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。